

Lecture6

Date & Place: 2009 September 1st, Dja Researve

Title of lecture: 「カメルーン東部州の熱帯雨林の保全と生態資源の利用（２）」

Lecturers: 市川光雄・木村大治（京都大学）、Dr. J.L. Betti（ドゥアラ大学）、
Mr. Fausitin Lebongo（ECOFAC）、Mr. F. Evariste（ヤウンデ第一大学）

Summary:

カメルーン東部州の熱帯雨林の保全と生態資源の利用（２）というテーマで、ジャー・リザーブのなかでの人びとの生活について見聞をふかめた。午前7時ころ四輪駆動車で宿舎を出発し、Dja 川を渡って、リザーブ内の森に入った。Dja 川は、水深約3メートル、川幅約30メートルある。川をわたったあと往復8キロの場所にある村へむかった。途中リザーブ内に自生している植物や森林資源について講師の話をきいた。二次林の証であるパラソルトツリーをみるが多かった（写真1）。村に着くと、ヘルスセンターや学校を紹介してもらった。一次林の中を歩いて巨大な岩場がある場所までトレッキングをおこなった。午後3時ころ宿舎にもどり、ジャー・リザーブ周辺に暮らす女性たちが組織しているグループがおこなっているエコツーリズム客向けサービスの一環として準備してもらった食事をとった。（写真2）プランテン、マニオク、マカボ、ジャガイモ、チキンなど、地域内でとれたものを中心に食事をつくっていただいた。彼女たちの活動についても話を聞くことができた。



写真1



写真2